

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	かごしまけんりつこうなんこうとうがっこう						
27～31	①学校名	鹿児島県立甲南高等学校				②所在都道府県	鹿児島県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	普通科各学年8クラス 計939名 (平成27年2月2日現在)		
普通科	320	40	40	0	400			
⑥研究開発構想名	地球規模でものを考え行動する21世紀薩摩スチューデントの育成							
⑦研究開発の概要	国内外の「人口問題に起因する諸問題」の解決を目指し、食・環境・ビジネス・観光をサブテーマに課題研究を行う。また海外派遣事業を実施し、他国の生徒と問題点の共有、発表、討論等を行う。これらの研究活動により、地域・世界の持続可能な発展に寄与する積極的な提案が可能な21世紀薩摩スチューデントを育成する。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標						
		<p>本事業は、21世紀薩摩スチューデント「地球規模でものを考え、行動するグローバル・リーダー」の育成をねらいとする。現在、日本国内では少子高齢が進み、また世界では2050年に約95億人程度にまで人口が増加する。限界集落の多い本県にとっても人口問題は喫緊の課題である。このことから、国内外ともに多方面に渡って影響が及ぶことが予想される。その現状を踏まえ、東京大学や鹿児島大学、地元企業等と連携し、「人口問題に起因する諸問題」をテーマとした課題研究を行い、海外派遣事業を実施する。これにより、将来の我が県ならびに国や世界を牽引するグローバル・リーダーの育成を図る。同時に、アクティブ・ラーニングなどの生徒が主体的・協働的に学習するための指導方法を教員間で共有し、実践する。</p>						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説						
		<p>本校はこれまで地域の進学校として、多くの優秀な生徒を集めてきた。周囲からも高い評価を受け、同時に期待もされている。しかしながら、平成13年度から本校が取り組んできた「総合的な学習の時間」における課題研究においては、現在では幾つか改善すべき課題が顕在化してきている。それは、課題解決型になっていない研究が多い、グローバル・スキルの育成が不十分ではない、鹿児島や日本を良くしようという気概のある生徒が少ない、教育方針が空文化している、というものであった。それらの解決を目指し、以下の仮説を立てた</p> <p>【仮説1】本事業により、世界と地域が抱える様々な課題に対して主体的に向き合い、課題に対する高い興味・関心を抱くと同時に、解決方法を考え抜く生徒を育成できる。</p> <p>【仮説2】本事業により、グローバル・スキル(=高度な「思考力・判断力・表現力」や主体性、協働する態度、リーダー性、高い英語力)を備えた生徒を育成できる。</p> <p>【仮説3】本事業により、21世紀薩摩スチューデントとして、地元を誇りを抱き、地域・世界の持続可能な発展に寄与したいと強く思う、桜島のようにどっしりと構え熱く燃える「気概」を持った生徒を育成できる。</p> <p>【仮説4】本事業により、生徒・教員の意識が変化し、本校の教育活動の変革につながる。</p>						
		(3) 成果の普及						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>他の九州内外のSGH指定校や県内高校の生徒たちを集めた「高校生国際シンポジウム」を生徒主体で実施する。本校だけでなく他校の生徒も様々な体験ができるようにする。</li> <li>研究成果や事業について、本校のWebサイトや地元の新聞に積極的に掲載する。</li> <li>県内外で本研究の内容と成果を発表する「研究発表」を積極的に実施する。</li> <li>研究報告書と総合的な学習の時間の教材(本事業成果物)を公開する。</li> </ul>						

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容  「人口問題に起因する諸問題」を主テーマとし、人口の増減の結果、将来重要な意味を持つことが予想され、生徒が主体的に考えていくべき「食・環境・ビジネス・観光」の各分野をサブテーマとし、課題研究やビジネス提案を行う。研究テーマ例は以下のとおりである。  【食】英国型農業と日本型農業の比較から見える将来の鹿児島の農業像  【環境】欧州エネルギー政策から学ぶ、低炭素社会実現に向けた日本の新エネルギー  【ビジネス】グローバルな視点から考えた地元特産品の販売に関するビジネス提案 ～アジア圏を対象として～  【観光】台湾・英国・鹿児島の観光資源活用の比較研究をもとにした外国人観光客誘致策以上のテーマについて、以下のように課題研究を実施する。  【1年次】 テーマおよびサブテーマについて、「総合的な学習の時間」において「日本と世界の現状を知る」「地域課題を学ぶ研修」「国内事例研究」「海外事例研究」の4単元を学び、課題およびその先行事例等を学びまとめる。発表に至るまでの過程においては、卒業するまで大学や企業等の方々からその都度指導・助言を受ける。  【2年次】 「総合的な学習の時間」において「調査研究」「論文作成」「プレゼン準備」「研究発表」の4単元で論文を完成させる。また、学校設定科目「Advanced English I」の時間を用いて、研究内容について英語レジュメ作成とプレゼン発表を行う。  【3年次】 2年生までに考察し探究した内容をもとに、「総合的な学習の時間」でさらに研究を発展させる。また学校設定科目「Advanced English II」の時間を活用し、課題研究について論文を英語で書く。さらに学会等で発表し、広く国内外でその成果を発信する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価  上記の課題研究を成功させるために、以下の研究開発を行う。  (A) 課題研究のための教材開発：課題研究に必要な内容やスキルを段階的に学べる教材をNPO「グローバルアカデミー」と協力開発し、生徒の育成につなげる。  (B) 課題研究やグローバル・スキルの評価方法：生徒の到達目標をCan-doリストで表し、生徒と教員が共有して使うことで、生徒のグローバル・スキルの向上を目指す。  (C) 大学や企業、公的機関等との連携：課題研究の内容の充実や思考力・判断力の向上を目指して、継続的に外部機関と連携を続ける。  (D) フィールドワークや成果発表の場としての国内外研修：グローバル研修「学び台湾」（1年）、「学びにUK」（2年）、国内研修（和歌山・2年）、国内研修（広島・2年）において、意見交換や研究発表等を行う。  (E) 生徒が発表する機会の充実：生徒による「高校生国際シンポジウム」を実施する。  【検証評価】 生徒の課題研究内容の分析、またCan-doリスト評価やアンケートなど総合的に課題研究の検証評価を行う。研究発表大会や運営指導委員会でも報告する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価  課題研究以外の研究開発は「指導方法の工夫や授業改善」である。この研究開発により、生徒のグローバル・スキル向上を目指し、アクティブ・ラーニングの手法を全教科・科目で導入する。  【検証評価】 各研究結果の分析、また生徒アンケートなど、総合的な検証評価を行う。また研究発表大会や運営指導委員会で報告し、指導・助言を得る。  <b>課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b> 教育課程の特例に該当しない教育課程の変更として、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、課題研究および発表を英語で行う学校設定科目「Advanced English I・II」（2年2単位、3年2単位）の新設。</p> <p>(2) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法  長期留学生、短期留学生、外国人高校生短期訪問の積極的受入や「全日本高校模擬国連大会」や「国際地理オリンピック」などのグローバルな内容を扱う大会への積極的参加。</p>
<p>⑨その他特記事項</p>	<p>特になし</p>

ふりがな	かごしまけんりつこうなんこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	鹿児島県立甲南高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	200人
	SGH対象生徒以外:	56人	46人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: ボランティア活動や、大学等が実施する研修などに参加する生徒数。SGH対象の50%の生徒の参加を目標にする。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	50人
	SGH対象生徒以外:	8人	3人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 短期留学及び長期留学に高校在学中に参加する生徒数。SGH対象の生徒は現在の5倍を目指す。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	19%	16%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 2年生2月にアンケートで確認する。本事業により、SGH対象の生徒は、ほぼ全員この意識を持たず。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	9人	14人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 英語によるスピーチ、スキット、ディベート大会で県ベスト4以上。または高校生模擬国連などの全国での受賞者数									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		10%	%	%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: CEFR B1・B2レベル(英検2級、準1級)以上の生徒数を増やす。									
グローバル化に対応する教育の必要性を感じ、自らの授業改善に取り組んだ教員の割合									
f	全教員:		31%						100%
目標設定の考え方: 本事業の教員間での共通認識を図るとともに、授業改善を一つのねらいと位置付ける。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		32%	37%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学への進学を本事業により増やし、進学実績を向上させる。(H25はSGUへの進学者数入らず)								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:		2人	2人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 生徒及び保護者の日本の国公立大学への進路希望が高いため、現実的に設定。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	10%
目標設定の考え方: 本事業の影響をアンケート調査で確認する(3年8月)。対象の生徒の8割を目指す。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	5人
目標設定の考え方: SGH対象の生徒のうち、半数が行くとして設定した。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	25人
目標設定の考え方: 2年次までの外国の大学・高校での研修への参加者数を半数強とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	15人
目標設定の考え方: 2年次までに海外の研修に参加しない生徒は、国内研修に参加する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	4校
目標設定の考え方: 31年度には4校(大学2校, 高校2校)を目標とする(英国・台湾)。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	16人	18人	人	人	人	人	人	100人
総目標設定の考え方: 合的な学習の時間および授業における回数。本事業により大幅に増やす。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 課題研究に関するプレゼンなどの発表時に招聘し、指導・助言を頂く。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	15人	20人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 英語を用いる大会(スピーチ, ディベート)や高校生模擬国連等のコンテストへの参加者数。2倍に増やす。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	2人	3人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 帰国生と留学生の数の合算。より積極的に行う。								
先進校としての研究発表回数								
h	4回	2回	回	回	回	回	回	10回
目標設定の考え方: 25, 26年度は「総合的な学習の時間」「英語力を強化する指導改善の取組」事業等における発表回数。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 生徒作成による英語ホームページを開設する。								
グローバル人材の育成を目的とした他の高校との交流(交流した学校数)								
j	0校	0校						10校
目標設定の考え方: 県内や九州内の他の学校との課題研究合同発表会を、生徒の力により本校で実施する。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	957	939	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							